

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	2770108583		
法人名	医療法人 一隅会		
事業所名	グループホーム 美原		
所在地	堺市美原区太井91番		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人とのことにより、週1回水曜日に主治医による往診が行われている。一人ひとりの体調の変化を報告を行っている。そのことにより利用者や家族には安心をしていただけている。緊急時の対応も敏速に行えています。
幹線道路の近くで交通量は多いが、静かな環境で生活を遅れている。見学等の道案内もスムーズに行えています。
周辺環境では、四季折々の環境である。施設向かいには神社があり秋祭りも見学も行っている。今年度4月より管理者が変わり、月1度の外出をできるだけ行えるようにしている。近隣施設とのコミュニケーションにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者、家族や職員の声を良く聞き取り、改善していく姿勢が顕著である。利用者からは日常の会話の中で、家族からは、来訪時や運営推進会議の中でなど、色々な機会を通して意見、要望を聞き出すようにしている。外出やイベントに関する事など、出された要望には、寺のつつじやリサイクル環境公園のバラを見に行くなどして、即座に対応するようにしている。利用者、家族の「外出したい、歩きたい」の要望には、色々計画してすぐに実践に移している。フロア会議を月に1度行い、行事内容やおやつ作り、業務改善、設備備品に至るまで職員の意見をよく聞き、理事長と話し合って運営に反映させている。管理者、担当職員の連携が非常に良くとれている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊重・安心・満足」 その人らしい生活が行えるように取り組んでいる。	事業所独自の理念「尊重・安心・満足」を作りあげ、玄関と各ユニットのリビングルームに掲示して、常に確認しながら実践につなげている。理念は開設当初に作ったもので、地域密着型サービスに相応しい理念を、新たに職員全員で考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できるだけ、近隣施設からの(盆踊り・秋祭り)に参加させていた抱き社会交流を図っている。	地域の民生委員が、運営推進会議で地域の情報を教えてくれたり、事業所でハーモニカ演奏をして、利用者を楽しませてくれたりしている。職員はキャラバンメイトの講習を受け、地域貢献をしている。近隣の商店での買い物や散歩時に地域の人と挨拶を交わし、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い、地域を通じて「何が必要か」を教えていただき、認知症の理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を行い、施設内で行われていること、困っていることをお伝えして、今後活かさせていただいている。	会議は、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加して、隔月に行われている。会議では、事業所の現状報告をすると共に話し合いを行い、外出や行事に関することや、「出来ることはやらせて欲しい」など利用者家族の意見、要望を受け、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困りごとがあれば、敏速に各課に相談を行い大きな事柄にならないよう取り組んでいる。	区役所の生活援護課や地域福祉課の担当窓口へ折に触れて訪問し、情報交換を行ったり、指導を受けたりして連携を持っている。2か月に1度、グループホーム連絡会があり、互いに悩みごとの相談を行っている。社会福祉協議会も訪問し、情報を提供してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	幹線道路が前にある為、玄関の開放は危険と考え、ご家族にはご理解をいただいている。	身体拘束適正化対策委員会を3か月に一度開催して、対策を検討している。適正化のための指針を作成し、年に2回研修して、安全を確保しながら自由な暮らしを支える工夫について学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で「虐待」について行い、自己啓発に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「認知症キャラバンメイト」の勉強会に参加して職員に伝達を行い制度の説明を行えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は記載の箇所を順番に説明を行い、疑問に思われることは説明を再度行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族代表者の方にご意見をいただき、それらを反映させていただいています。	利用者からは日常の会話の中で、家族からは、来訪時や運営推進会議の中でなど、色々な機会を通して意見、要望を聞き出すようにしている。外出やイベントに関することなど、出された要望には、寺のつつじやリサイクル環境公園のバラを見に行くなどして、即座に対応するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見と提案を受けてできるだけ反映できるように代表者に報告を行い反映している。	管理者、担当職員の連携が非常に良く取れており、フロア会議を月に1度行い、行事内容やおやつ作り、業務改善、設備備品に至るまで職員の意見を良く聞き、理事長と話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度に「処遇改善加算Ⅲ→Ⅰに変更となり、給料面も資格手当も加算されるようになり、職員の安定を図った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修で職員の力量の発揮の機会を図っている。外部研修にも積極的に参加できるように、環境整備に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣区グループホーム交流会に参加をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で利用者と家族が安心できるように配慮する。入所前には職員へアセスメントとを伝達を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族の不安をできるだけ酌み安心いただけるように取り交わしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には十分に利用者と家族のアセスメントを行いケアプランのニーズに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の「できること」を継続的に行えるように職員間での情報を共有をして支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との時間を有意義に過ごしていただくために、面会時は居室で家族に時間を取っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や馴染みについては、利用者や家族に聞き取りを行い、できるだけ自宅にいた時の生活に近いように支援している。	今まで利用者が関わってきた地域社会との関係を継続して行くために、馴染みの店へ買い物に出掛けたり、友人、知人の所へ出掛けるなど、家族の協力を得ながら支援に努めている。手紙や年賀状の宛名書きの支援も職員が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係ができるように配慮を行い、職員が間に入ることで孤立しないような配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの通りにできるだけ終了をしても交流を図り、また介護のことでの相談が行えるように努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向や思いは日々の生活で聞き取りできるだけ実現できるように支援している。	普段利用者と生活していく中で、利用者の思いを出来るだけ聞き出すようにしている。「歩けるようになりたい」と強い思いを持っている利用者には、生活リハビリの一環として、外出を中心とした歩行訓練を多く取り入れたり、「かき氷を食べたい」との声には、職員が自宅にあるかき氷器を持って来るなど、可能な限り要望に沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にはどのような生活形態で過ごされていたかを入所前に聞き取り行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等で、変化があれば対応を行い、職員間での共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のスタッフ会議で、一人ずつのカンファレンスを行い介護計画にのっとり支援を行っている。変化にはすぐに対応を行っている。	介護計画の期間は、長期計画を6か月、短期計画を3か月としている。日々の支援経過や、月々のモニタリング、カンファレンスなどで実施状況をチェックしている。利用者の状況に変化が起きた時にはその都度計画を見直し、帰宅願望の強い利用者には、外出を増やして軽減を図るなど、臨機応変に計画を見直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ケース記録に記入を行いさらに職員間での情報の共有をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月の外出を行い、地域交流や外出先での社会交流をはかっている。ボランティア（マッサージ）にもできるだけ訪問をしてもらい、特色を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアによるレクリエーションの企画を行いQOL向上を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	医療法人の特色の通り、主治医が理事長になります。緊急時の対応は敏速です。また入所前のかかりつけ医の希望があれば家族支援で受診は可能です。	入居契約時に、利用者や家族との話し合いの上、希望するかかりつけ医を決めている。従来からのかかりつけ医や内科以外の受診には、基本的に家族が同行し、報告を家族から受けることにしている。家族が不可能な時には職員が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護を利用している。個々の健康面を主治医と訪問看護と施設で連携して情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をすると、医療機関と主治医・主治医とスタッフで連携をし、情報の共有を行っている。早期に退院が行えるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近づき「どのような希望」かの意思を家族に相談と希望を確認をすることになっている。	重度化した場合の対応のあり方について、事業所の指針を作成し、対応しうる最善のケアについて利用者、家族に説明して方針を共有し、同意書を交わして、家族の納得の出来る支援をしている。医療機関とは24時間オンコール体制にあり、過去5年間に5例の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、緊急時等の訓練はできるだけ、自施設研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災・防火訓練を行っている。いざという時に対応できるように、日ごろからの地域の方とのコミュニケーションを図るようにしている。	水害、地震、火災など災害別に、避難訓練や消火訓練を、利用者と共に年に2回行っている。災害に備えた備蓄備品も整えている。しかし、夜間を想定した地域の人々との避難協力体制に少し不安があり、協力依頼はしているが、実際に訓練したことはない。	職員が利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを、近隣の人々(協力依頼しているファミリーレストランやガソリンスタンド、民生委員)にお願いし、いざという時に混乱しないように役割分担して、折に触れて避難訓練を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者・家族からの要望はできるだけ添えるように言葉かけや対応に気を配っている。	プライバシーの保護や接遇などについて研修を実施し、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助をしている。個人ファイルは2階スタッフルームの書庫に厳重に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者の思いと希望に添えるように声掛けに工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや尊厳を大切に行い、その方のペースでの生活に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問移動美容を2か月に1度の利用している。洋服の色合いも更衣時に確認を行い身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にはテーブル拭き、食後はトレー拭き等を利用者に手伝って頂くことで、食事の楽しみにしてもらっている。	食材会社の食材を、温め直して提供している。テーブル拭きや後片付けは、利用者と共に和やかな雰囲気の中で行っている。時にはおやつレクレーションとして、利用者の好みを聞きながら、ケーキ作りやわらび餅作りなどしている。職員は見守りに徹していて、同じ食卓を囲んで食事する家庭的な風景は見られない。	食事は、暮らし全体の中で楽しみの一つとして、非常に大きなウエイトを占めている。利用者と職員が、同じテーブルを囲んで同じ物を楽しく食べる家庭的な雰囲気を、是非作りあげて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分量の記録を行っている。日により摂る量に違いはあるができるだけ水分量の確認と声掛けを行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内において毎食後の口腔ケアの習慣がなかったため、歯科の変更を行い口腔内衛生に取り組んでいる。口腔ケア習慣を生活のパターンに取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自己にて行える。失禁等のときは、自尊心を傷つけずに配慮を行っている。	利用者の排泄パターンやサインを全職員が把握して、あからさまな声掛けではなく、さりげなくトイレ誘導し、一人ひとりに合った自立支援に向けた介助を行っている。夜間は1時間毎に巡回して、睡眠を重視した排泄介助に努めている。各居室にトイレがあるので、排泄後はすぐに流さずに、職員が目視で確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量と排便コントロール(排便薬)を一人ずつに確認を行い行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3名の入浴により、ゆったりとご本人のペースで入浴を楽しまれている。	入浴日は週2回午後の2時間の間を基本としているが、それ以外の時間の入浴を希望する利用者には、臨機応変に対応している。入浴拒否の人には、毎日声掛けして気分が乗った時を見計らって、優先的に入浴介助を行っている。冬至のゆず湯や、時折入浴剤で温泉気分を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にはフロア内でのテレビ鑑賞や談笑をされているが、居室内でゆっくりされた方はご本人のペースで過ごされています。 夜間は室温には十分配慮して安心されるように安眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、声だし確認を行い「名前・○食後薬・日付」の確認を行っている。 薬の大切さも職員でも理解できるように薬情の確認をしてもらうように徹している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の花の水やりを日課としている。 一人ひとりの気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を作っている。 家族の支援も現在はある。 夏には花の水やりを行い、育てるの意識と外出の機会を作っている。	天気の良い日は、事業所の周りを散歩したり、近くのコンビニやスーパーまで買い物に出掛けたり、プランターの花に水やりをしたりしている。時には、寺やリサイクル公園まで車で出掛けて、つつじを観たりバラを鑑賞したりしている。家族の協力で、馴染みの美容院へ行ったり外食する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭管理は行わず、家族管理。 買い物時は立替払いの翌月請求を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの連絡があれば、できるだけ取り繋げるが、特に家族からは希望されない。来月から、年賀状を家族に送るように企画案が出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内で利用者間の談笑もされ、穏やかに過ごしていただいている。時にはカラオケをされたりゲームされ、強制することなく自由に参加ができるような環境作りをしている。	ゆったりした明るいリビングルームでは、利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者や職員の作った作品の展示があり、大仙公園へ出掛ける予定表も、楽しい挿絵付きで貼られている。生活感に溢れて居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の環境作りを行い、一人ひとりの性格やADLを考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が自分の自宅にいるような環境に工夫をしている。自宅で使用していた愛用品等がご持参頂いている。	各居室には、トイレ・洗面台・クローゼットが完備されている。居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、本人と家族とで自由に配置して、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。利用者の得意とする作品なども飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方らしく安全な生活環境作りを支援している。(ベッドからトイレに行く配置等)		